愛ちゃんがゆく！ —県議体験記—

第21話 議員の呼び方

5年前に議員になった頃、急にまわりから「大塚先生」と呼ばれることが増えてしまい困りました。その度に「先生はつけないで」といろんな方にお願いしていましたが、県庁内では「先生」と呼ぶのがほぼルールのようだったので、変更は諦めて、先生と呼ばれても「大塚さん」と呼ばれていると思い込むことにしました。「先生」と呼ばれることで、しっかりしなければというプレッシャーももらえるわけですが、「大塚さん」「愛さん（ちゃん）」と普通に呼んでもらえると、ほっとできて、自然体で頑張れる気がします。

議員になった当初2歳だった娘も7歳になり、「お母さん議員」も少しは板についてきました。

日々のうごき

2021年10月～12月

10.12 文教委員会視察@古代吉備文化財センター、南支援学校
10.13 文教委員会視察@理大附属高校バカロレア教育
10.14 温熱&省エネ建築意見交換会online、たけべ中学だっぴ準備会
10.15 常任委員会（農林水産）、みつカフェ@岡山御津高校、若年女性の性@日本母性衛生学会
10.17 リアルボイス発表会・勉強会@岡山きょうだい会
10.18 家庭教育応援条例トークイベント
10.20 ひるカフェ@御津高
10.21 建築の温熱・省エネセミナーonline
10.22 高校受験の合理的配慮のお話
10.23 手話講座@建部町公民館、地域探求授業@御津中学校、ボケットサポート勉強会online
10.26 こころのアート展@slowcafeたんぽぽ、ももぞの学園作家展

10.29 体育発表会@竹枝小学校
10.30 「いただきます2」上映会&講演会
11.1~2 農林水産委員会視察@備中地区
11.3 「緑と水の道」会議@絵図町公会堂
11.6 御津ししまいフェスタ@御津公民館、KOTOMO基金活動報告会online

11.7 かいぼり調査@竹枝小学校近く旭川、アースデイ岡山×SDGs@北長瀬ブランチ
11.8 たけべ米見学@たけべ特別栽培農産物研究会、産業労働委員会視察
11.9 みどり岡山会議、国労からの芸備線陳情提出同行@県庁
11.11 ゲートボール大会@建部町B&G、水彩連盟岡山支部展、広域避難支援の取材、フラワーデモ@エキチカ広場
11.12 女性の政治参加トーク@福岡ジェンダー研究会
11.13 強度行動障害の研修会、気候変動のおかやま学@岡山市役所
11.15 常任委員会、高校の合理的配慮のお話
11.16 福島原発おかやま訴訟本人尋問@岡山地裁
11.18 建築の温熱・省エネ意見交換、イコン展、ヤングケアラーの意見交換会
11.19 常任委員会、原発災害の講演@操南中学校（応接室からオンラインで）

11.20 空き家の立ち合い、太陽光発電所説明会@建部町公民館、県政市政おはなし会@京山公民館
11.21 定祭（故佐藤定氏の絵画展）
11.22 特別委員会（教育再生・子ども応援）、いっぽ通信プラス収録
11.23 七五三@建部町吉田熊野神社
11.24 たけべ中学生だっぴ@建部中
11.25 「3·11への祈り」実行委員会
11.26 ユースセンターのお話@SGSG、断熱改修の下見@操南中学校
11.27 音楽発表会@竹枝小学校、四つ手網@九蟠
11.28 「みんなの第九」合唱練習@大和公民館
11.30 11月議会開会、がん対策議連総会、不登校支援のお話@NPOステップ、子ども未来・愛ネットワーク世話人会
12.2 おかやま地域若者サポートステーション訪問
12.3 代表質問（秋山議員）、Vネット岡山理事会online
12.4 たんぽぽネットワーク定例会@吉備公民館
12.5 車いすテニスニューミックス大会@二日市公園、「みんなの第九」音楽会@ロマン高原かよう
12.8 ～14 一般質問（14日に登壇）
12.10 岡山市移住オンライン座談会
12.11 クリスマス朗読会@御津ふれあいプラザ
12.12 三世代おかざり作り交流会@建部町B&G、「いただきます2オーガニック給食編」上映会
12.13 中途退学者支援のお話@青少年総合相談センター
12.15 ルネス学発表＋ひるカフェ@御津高、たけべ中学生だっぴ反省会@こら～れ

12.16 特別委員会、成年後見制度のお話、ストップ性暴力の会定例会@日替わりママ
12.17 常任委員会、B型肝炎「いのちの教育」のお話、学校での農薬使用ヒアリング@県教委、
12.18 加茂川ホリデイフォレスター
12.19 ぐるーん10周年記念講演会「子どもの声からはじめよう」

12.21 「緑と水の道」要望書提出@岡山市役所、たねをまもる会おかやまミーティング
12.22 11月議会閉会、使える制度が分かるお披露目会@おかやまNPOセンターonline
12.26 児島湖締切堤防プラゴミ回収

12.29 「岡山きずな」炊出しボランティア

おおつかあい・プロフィール
1974年1月10日生まれ。旭操小学校、操南中学校、岡山朝日高校、岡山大学教育学部卒業。99年より福島県で農業研修。4年間の大工修業の後、自宅を建て、大工として働く。2011年3月福島原発事故により一家で岡山に避難。5月「子ども未来・愛ネットワーク」を立ち上げ、避難移住者のサポートや福島の子ども達の保養受け入れなどを行う。北区建部町に夫、3人の子どもと暮らす。2016年から県議会議員。

大塚愛 いっぽ通信
岡山県議会議員
大塚愛 県政レポート［第21号］
発行：2022年1月（2021年11月議会報告）
–
最新情報を発信しています
Facebook:
・みどり岡山
www.facebook.com/greenokayama
・大塚愛
www.facebook.com/ohtsuka.ai.3
みどり岡山ホームページ：
http://midori-okayama.org

［事務所］
〒700-0971
岡山市北区野田5-8-11
Tel:086-244-7721
Fax:086-244-7724
e-mail:info@midori-okayama.org
http://midori-okayama.org/
［自宅］
〒709-3122
岡山市北区建部町吉田321
携帯：070-5056-3808
e-mail:ai.raku@shokan.jp

県政レポート（2022年1月発行）［第21号］

水仙の花言葉：神秘

大塚愛（おおつかあい） いっぽ通信

P.02-03 子どもや若者をサポート
P.01 エネルギーの無駄をなくし、健康度をあげる建築とは
P.02-03 おもな活動記録から「きょうだい」の声を聴く・「みんなの第九」
P.04 愛ちゃんがゆく！—県議体験記—／日々のうごき（2021年10月～12月）

新春のお慶びを申し上げます。

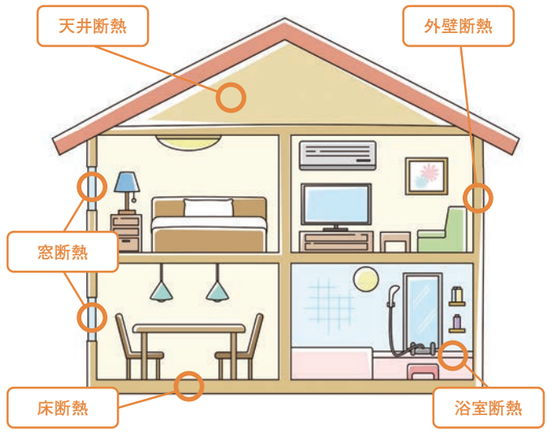
年始からオミクロン株による感染が増え、マスク姿の生活もはや2年になりますが、あともうひと踏ん張りで乗り超えたいと願うところです。

昨年、私は建築の「断熱」について勉強することが度々ありました。気候変動を防ぐカーボンニュートラルに舵を切るためには、住宅やビル、公共施設などで使うエネルギーも大幅に減らしていく必要があります。しかし、日本の家は欧州などに比べて断熱性能が低く、たとえば窓ガラス1枚の断熱性能は障子紙1枚と同じだそうです。昔はコタツで温まることが多かったですが、今は部屋全体を温める暖房に替わってきているので、家の中をいくら温めても熱がどんどん逃げてしまう構造だと、常にエネルギーを無駄使いしてしまいます。

今年は年女なので、虎になった気持ちでお正月に描いた絵です。虎のように勇敢にしなやかに、時に気ままに。コロナに負けずに頑張っていきましょう。

そんな中、北隣の鳥取県では、欧州並みの断熱基準（HEAT 20のG1·G2）を最低限クリアしていこうと独自の基準をつくって、工務店向けの研修も頑張っておられ、新築住宅の1割以上がすでにこれをクリアしているそうです。

断熱性能を上げるには建築費が高くなりますが、その分、消費エネルギーと光熱費は減りますので、数十年間のトータルコストで考えれば高くはなりません。また、室内が快適になる上に、冬場に起こりやすいヒートショック（年間約5000件死亡、交通事故死より多い）を防ぐこともできるので、いろいろなメリットがあると言えます。環境や健康という視点で考えると、住宅や学校など建物の新しい姿が見えてきそうです。



断熱リフォームをすると、冷暖房がよくきく、窓の結露やカビの発生がなくなる、快適さやヒートショック防止などのメリットがあります。特に熱は窓から逃げるので、断熱シートを貼ったり、障子紙を表裏両面に貼るなどDIYの工夫もおススメです。

11月議会一般質問から　子どもや若者をサポートするために

「いっぽ通信Plus!」動画はこちら

Q. 2021年の流行語大賞に「親ガチャ」という言葉がトップ10に選ばれ、「生まれた時の環境や親で自分の人生が決まる」という価値観が若者に広がっていると言われています。7人に1人の子どもが相対的貧困状態にある中で、経済格差が子どもの将来を限定したり、困難さを抱える親御さんの元で育つ子どもが、さらなる困難の連鎖を受けやすいという状況が生まれています。少子化が進む今、次世代の担い手を増やしていけるよう、不安定さを抱えたまま社会に出ていく若者たちを支えていくことが大切ですが、そのような子どもや若者のサポートについてどう考えますか。

A［知事］. 子どもたちの将来が家庭の経済状況などに左右されることのないよう、市町村やボランティア・NPOなどの様々な主体と連携協力しながら、子どもや若者が未来を切り開ける環境づくりに全力で取り組んでいきたい。

今回は、「子どもと若者の支援」という一本に絞って、10項目の質問をしました。

Q. 今年、県内の中学校を卒業した生徒のうち、進路が決まっていなかった生徒は145名でした。進路が決まっていない子どもには、中学校に在籍しているうちに、卒業後も続く支援につながることが望ましいですが、今後の県内の取り組みは?

A［県民生活部長］. NPOなどの民間支援団体における支援状況は承知していないが、今後の民間支援団体の活動状況を把握し、教育委員会と情報共有すると共に、そうした団体と連携していきたい。

Q. R2年度に高校を中途退学したのは、633名（約1%）でしたが、中途退学をした生徒の支援状況や効果的な支援について。

A［県民生活部長］. 専任コーディネーターが4年間で高校中途退学者45人からの相談に対応し、そのうち24人が定時制高校や通信制高校への編入や就労に結びつき、残る21人については相談を継続している。出産のために中退した生徒についても実情に応じて支援に努めている。効果的な支援のためには、青少年総合相談センターの窓口の周知や関連機関との連携が重要だと考える。

◎青少年総合相談センター（ハートフルおかやま110）
高校中退や進路、友だちや家族、育児などの相談を受けています。無料、匿名でもOK。臨床心理士やケアコーディネーター、学生ボランティアが対応。Tel:086-224-7110

◎中退者向け進路情報リーフレット
「あなたの一歩を応援します」定時制への編入、高卒資格、技能習得、就職など

Q. 子どもや若者の支援には教育、福祉、雇用などの連携が欠かせませんが、まず初めに学校のSSW（スクールソーシャルワーカー）から関係機関に繋がれる場面が多々あります。しかし学校や関連機関からは「せっかく連携をしていても、すぐに担当のSSWが変わってしまってやりづらい」という声がいまだに聞かれます。昨年の6月議会で質問した際に、担当期間を改善していくと言われましたが、現状はいかがですか。

A［教育長］. 2年以上配置されている学校の割合は、48.1%で前年度より4.8ポイント増加している。今後も継続した配置に向けて努力したい。

Q. 問題行動が多い状況を改善させてこられた何人かの校長先生からお話を伺うと、その先生方は決まってある共通の考えをお持ちでした。それは「困った生徒は、困っている生徒」という見方です。問題行動を起こす子どもは、先生にとって困った生徒かもしれませんが、本当は子ども本人が困っている状態の表れだと捉え、彼ら彼女らを理解して、寄り添う体制を整えたり、場合によっては早期に支援に繋ぐことが大事です。そういう眼差しを持つ先生が一人でも増えることが、岡山県の教育再生には不可欠であり、そうした「学校の福祉力」をあげていただきい。

A［教育長］. 問題行動を起こした児童生徒には、その背景にある家庭環境等の本人が抱える課題を理解した上で、本人の気持ちを丁寧に聴き取ることなどが重要で、こうした姿勢を身につけるために研修を行っている。一番状況の厳しい子ども達をいかに支えて上にあげていくのかということが、学校の大切な役割だと思っている。

Q. 発達障がいのある若者にとっては、職場への不適応や離職を防ぐための支援が必要ですが、就労移行支援事業を活用し、準備期間（最長2年）を経て、就労後にアフターフォローを受けることもできます。私立高校ではこの支援を受ける生徒が増えていると聞きますが、県立高校ではいかがですか。また地域若者サポートステーション（略称:サポステ）では、高校在学中（3年生の1月以降）から利用することができますが、まだあまり教員に知られていない現状があるため、必要とする生徒に情報が届くようにしていただきたい。

A［教育長］. 高校からの要請に応じて、特別支援学校からの就労支援コーディネーターを派遣し、就労移行支援事業の活用を含め助言している。サポステとの連携についても高校を指導していく。

◎おかやまサポステ（地域若者サポートステーション）
コミュニケーションが苦手、働くのが不安でなかなか踏み出せないという方（15～49歳）を対象に、個別相談や訪問支援、職場体験などのサポートをしています。利用は無料。

Q. 「おかやま子ども・若者サポートネット」では、県内で子どもや若者の育成・支援に関わる専門機関や民間支援団体が連携し、総合的な支援体制を構築していますが、フリースクールや学びなおし、若者の居場所などの活動を行う団体にも登録していただき、連携を充実させ、かつ多岐に渡る関連機関の見える化を進めていただきたいが。

知事は福祉的な問題に関心が薄いようなので、もっと現場の話を聞いてほしいと要望しました。

A［県民生活部長］. 現在54の関連機関や団体で構成されているが、NPO等様々な民間団体による支援も広がってきているため、参加の働きかけを行い、支援のネットワークを充実させたい。

不登校支援、自立支援、発達の相談などを行っている県内112カ所が紹介されています。

おもな「活動記録」から

リアルボイスTODOKERU発表会&SHIRITAI勉強会in岡山

@岡山市勤労者福祉センター（10月16日・17日）

障がいのある兄弟姉妹のいる方のことを「きょうだい」と呼びますが、10月には「岡山きょうだい会」の方々が中心になって、「きょうだい」の声を伝えるイベントが開催されました。発表会では、障がいのある子を育てるのに一生懸命だった親御さんや、つい我慢してしまったり、しっかりすることを求められてしまう「きょうだい」の心の声がリアルに演じられました。座談会では、子どもの頃の差別に傷ついたり、親なき後の将来を悩む気持ちが語られ、「きょうだい」の方が抱える様々な気持ちが伝わる貴重な機会で、ケアラーを支える社会の必要も感じました。ボランティアとして一緒に参加した学生さんにもきょうだい当事者が2名おられて、安心して気持ちを語りあえる場があることを喜んでいました。

https://riaruboisu.webnode.jp/
連絡先 realvoice.e.c@gmail.com

吉備高原音楽祭「みんなの第九」

@ロマン高原かよう総合会館（12月5日）

吉備中央町でオーケストラと合唱団が結成され、ベートーヴェンの「第九」の音楽会が開催されることになり、アルトの一員として参加しました。幼い頃に祖母や伯父が年末恒例の第九に参加する姿を見ていたものですが、いざ自分がやるとなると、第九のメロディーは美しいだけに難しさもありました。迎えた本番は子ども達も加わり、ピアニカや和太鼓も入った手作り感いっぱいのオーケストラに、総勢60名以上の合唱が重なり、心をあわせた音楽が奏でられました。コロナ禍で様々な活動が制限されてきましたが、暮らしに文化のあることの豊かさを実感するひと時でした。この「みんなの第九」は今後10年間続けられる構想です。興味のある方はどうぞご参加ください。詳しくはこちらから

音楽祭のダイジェストはこちらからご覧いただけます。

＊質問と答弁の詳細は、岡山県議会のHP『会議録検索』でみることができます。

2022年2月議会の日程：2月22日（火）開会／25日（金）代表質問。3月2日（水）～4日（金）・8日（火）・9日（水）一般質問／18日（金）閉会